

第四回報告書

2018年秋よりイェール大学統計学部修士課程に在籍し2020年1月より同博士課程に進学します山田祐太郎と申します。今回は大学院を一時休学して働いていたFacebook Inc.での経験、バイエリアでの生活等について振り返りたいと思います。

1. インターン

2019年の七月から2020年の一月までFacebookでリサーチインターンをしていました。インターン先はEfficiency and Performanceというところで、Facebook全体の計算インフラを、どの部署に効率的に割り当てるべきか、といったインフラ予算の管理を主に行っている部署です。Facebookで見るポストや広告をどういふ順番で提示するかはそれぞれのユーザーごとに最適化されていて、そのパーソナライズされた推薦システムに機械学習が使われているのですが、そのこのパイプラインをより少ないデータサンプルで効率的に学習するための研究をしていました。インターンの後半はFacebookの実際のプロダクションモデルに組み込むためのエンジニアリングが主な仕事となりました。Computer scienceの醍醐味の一つであるmake things work at scaleという感じで、大学で研究しているだけでは味わえないような貴重な経験となりました。

2. 食事・お菓子・エスプレッソマシン

Facebookの本館はテーマパーク感に溢れていました。後日ディズニーランドを設計した建築家が建てたと聞いて納得しました。本館の敷地を貫くメインストリートはお昼時になるとメキシコ、中華、インド系などたくさんの種類のお店がオープンして、人通りも多くなって毎日賑やかでした。その他にもバイキング形式のダイニングホールがいくつかあって、朝昼晩全て食事が提供されていました。そういうわけで土日以外は全て会社で食べていました。特に朝食時にあったオレンジジュースは毎朝絞りたてで格別においしかったです。また社内のあちこちに休憩スペースがあり、飲み物やお菓子が置いてあって自由に飲食できるようになっていました。中でも驚いたのはカフェで見るような業務用の大きなエスプレッソマシンがあったことです。使い方を友人に習ってからほぼ毎日自作カフェラテを飲んでいました。せっかくなのでラテアートの練習もしようかと思いましたが、思うだけで淡々と日々が過ぎていきました。

3. サンフランシスコ

大学時代の友人が何人かサンフランシスコに住んでいたので会いに行ったりしました。そのうちの一人は大学在学中の四年生の時に起業して僕がインターンを始める少し前くらいに事業を売却し、それなりの量のキャッシュが入ったみたいで、かなり豪華なタワーマンションに住んでいました。アメリカでのTech系の起業はlow-hanging fruitsが既に取られてしまっていてだんだん厳しくなっているといった話もありますが、未だに夢のある話だと思いました。そういえば

第四回報告書

Amazon Goという無人コンビニ(?)があったので初めて友人と入ってみました。店にふらっと入って商品を手にとって出ていくだけで買い物が済んで未来感がありました。

3. 生活一般

パロアルトに住んでいる高校時代からの友人と何度か食事に行ったり映画に行ったりする機会がありました。『もう25歳じゃん。。』と僕が言うと『しょうがないよ。誰も悪くない。』とその友人は言って、本当にその通りだ、と僕も思ったのでした。